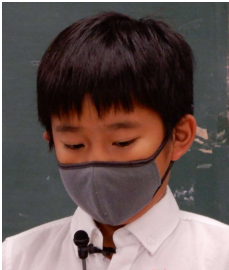


2021年度(令和3年度)第71回“社会を明るくする運動”作文コンテスト  
小学校の部【最優秀賞】

「僕にできること」

東小学学校 6年 砂川 柊斗



僕たちは普段からルールを守って暮らしています。学校へ登校するときにはルールを守って横断歩道を渡ったり、事故にならないよう道路へ飛び出さないということを交通安全指導の方やまわりの大人から教えてもらいました。授業中はおしゃべりをせず、先生や友達の話をしっかり聞くというルールがあります。

しかし、学校のルールなどを守れない子どもたちがいるので、そのことを考えてみました。

僕は弟が三人いますが、一人は発達障害があり注意散漫になります。登校するとき気になる物を見つけて道路に飛び出してしまうことがありましたが、僕が危ないと考えて歩道へ引き戻し安全に登校できました。

危ないことをしたら声をかけて注意してあげると、弟もだんだんとよくなっていると思います。弟は学校の中でもルールを守らないことがたくさんあります。教えても直らないことがあるので、僕は頭にきてムカムカしますが、怒らないで自分をリラックスさせて、また教えます。この先いつかは良くなるんじゃないかと思いながら弟を見守っています。

悪いことをしようとしている人も、ほったかしにするのではなくて、みんなで気にかけてあげると防止できると思います。

僕は犯罪や非行とはどういうものなのか考えました。犯罪は法律を守らないことです。

例えば物品破損や交通違反、不法投ぎ、せっ盗、暴行、さぎなどの犯罪があります。

非行とは不良行為のことで未成年の犯罪です。例えば未成年がタバコを吸ったり、お酒を飲んだり、人の物を盗ったりする悪いことで、たくさんあります。警察に捕まり罪を認め反省して刑務所から出てきたときは、周りの人から偏見の目で見られることもあると思います。偏見の目で見られ仕事ができなければお金に困り、万引きやさぎやせっ盗をくり返してしまうと思います。また事実ではないことやデマやうわさが広まり、せっかく反省した人でも再犯をしてしまう人もいます。決してません。

僕が弟とけんかをしたとき弟が暴力的になったことがあります。弟は悪くないのに、周りからお前のせいだと言われ誤解されていたことを誰にもわかってもらえなかったからです。そのとき僕は相手の言い分を聞いて理解することは簡単ではないけれど、できるようにしたいと思いなした。悪いことをした人でも反省しているところとか、がんばっているところを認めてあげることが大切だと思います。そうしたら明るい未来になると思います。